

第2節 常盤構内の立会調査

工学部ガス管改修に伴う立会調査

調査地区 常盤構内

調査期間 平成3年3月27日

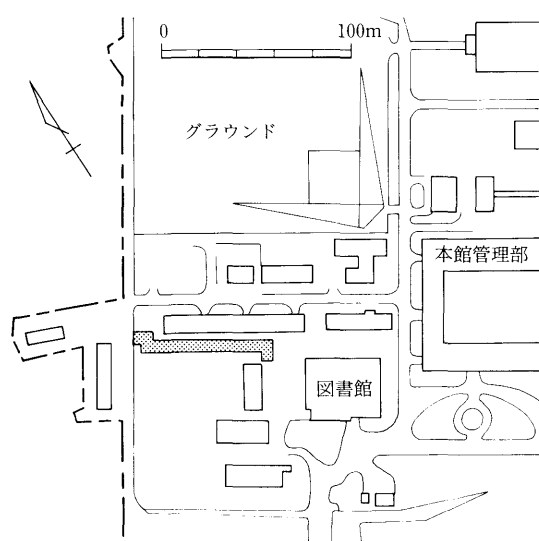
調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約45m²

調査結果 常盤構内は他の山口大学構内と比較して過去の調査事例が少なく、しかも、断片的な調査にとどまっているのが現状である。そのため、埋蔵文化財の有無、分布範囲について不明瞭な点も多い。今回、実施したような一定地域内の埋蔵文化財の有無、分布範囲を明らかにする手がかりとなる立会調査は今後、有効な手段となるであろう。

今回実施した工事の内容は、常盤構内の南西部に位置する電気工学科棟の南側を、東西に幅約40cm、長さ約112mにわたって現地表面から約75cm掘削し、ガスを埋設するものである。工事地域はほぼ平坦であるが、その南側に存在する講義棟との境界付近で階段状に造成されており、講義棟に比べ約1m高所に位置している。

工事路線内の土層の堆積状況は極めて単純で、構内造成等の埋め土が層厚約30～35cmにわたりほぼ水平に客土されている。その直下が赤褐色粘土の地山となるが、遺構は検出できなかった。なお、工事基底面では蛇紋岩の岩盤が確認された。したがって、今回の調査



地域の南西に位置する講義棟周辺では、後世の削平によって地山の削平が大規模に行われており、遺構が存在していたとしてもすでに消滅している可能性が高い。

Fig.47 調査区位置図